

■加藤常賢 中国古代学者。漢字の研究を通じて、中国文化の根幹について論じた。

かとうじょうけん

日清戦争始・1894＝ 愛知県で、早川伊兵衛・きんの子に生まれる。

ピアノ国産化・1900＝ 6歳：四ツ家尋常小学校に入学。

日比谷公園・1903＝ 9歳：曹洞宗康勝寺に入る。

日露戦争始・1904＝10歳：卒業し、西春日井郡北部高等小学校に入学。

日露戦争終・1905＝11歳：

アヲヲ創刊・1908＝14歳：康勝寺住職加藤良宗の養子となる。卒業し、私立曹洞宗第三中学校(愛知中学校)に入学。

明治天皇没・1912＝18歳：

大正政変・1913＝19歳：卒業し、第八高等学校に入学。

生涯の師となる漢文教師藤塚郷と出会って支那学をめざすようになるとともに、親友になった大塚道光(のちに宗教学者で名を成す)からフレーザーの「金枝編」を薦められ、原始宗教に関心を抱くようになり、

ロシア革命・1917＝23歳：卒業し、東京帝国大学文学部支那哲学科に入学、恩師となる服部宇之吉と出会う。

大暴落・・・1920＝26歳：論文「支那古代宗教思想の研究」を提出して卒業。東京帝国大学大学院に進み、副手となる。

原敬首相暗殺1921＝27歳：国学院大学講師を委嘱される。

水平社結成・1922＝28歳：大学院を修了。

関東大震災・1923＝29歳：「現代語訳荀子」刊行。静岡高等学校漢文科講師を嘱託される。名古屋医大病理学教授でツツガ虫病の病原体の発見者林直助の長女さだと結婚。

護憲三派圧勝1924＝30歳：長女史子が誕生。「現代語訳近思録」刊行。静岡高等学校教授となる。

円本時代始・1926＝32歳：次女迪子が誕生。

共産党事件・1928＝34歳：藤塚郷の推薦で、京城帝国大学助教授に任ぜられ、単身赴任。契金文と出会い、王国維を読んで、尚書の研究もスタート、

世界恐慌・・・1929＝35歳：論文「支那古代の宗教儀礼に就て」(舅姑甥称谓考)。

海軍軍縮条約1930＝36歳：論文「?(女+弟)?(女+以)姉妹考」。支那へ2年間の留学を命じられ、中国人学者の知遇も得、

満州事変・・・1931＝37歳：

この間、学位論文となる「爾雅釈をを通じて見たる支那古代家族制度研究」を執筆、

国際連盟脱退1933＝39歳：論文「兄字考」。\*帰国。{漢文学講座}に「支那家族制度に於ける主要問題」。広島文理科大学教授となる。

帝人疑獄事件1934＝40歳：論文「昭穆制度起原考～婚姻階級を参考して」。学位論文審査委員。広島高等師範学校漢文講師。

芥川直木賞始1935＝41歳：長男が誕生するも直ぐに死去。論文「小宗の族組織に就いて」。

二二六事件・1936＝42歳：論文「昭穆制度続考」「嫡考」。

日中戦争始・1937＝43歳：論文「礼の原始的意味」「釈宗」。学位申請書を提出し、

健保+総動員1938＝44歳：東京帝国大学より文学博士号。九州帝国大学非常勤講師を委嘱される。

第二次大戦始1939＝45歳：論文「支那家族の型体」。

大政翼賛会・1940＝46歳：\*学位論文は、岩波書店から「支那古代家族制度研究」として刊行。

日米開戦・・・1941＝47歳：論文「春秋学に於ける王」。

・・・1942＝48歳：論文「公私考」。

創価学会検挙1943＝49歳：論文「書社及社考」。卒論に手を加えた「礼の起原と其発達」刊行。

敗戦・・・1945＝51歳：広島駅で被爆、遺言まで認めるも、全くの幸運から助かり、

新憲法施行・1947＝53歳：東京帝国大学教授となる。

極東裁判決・1948＝54歳：論文「支那古史史の研究」。

三大事件・・・1949＝55歳：「春秋学～儒家国家哲学」刊行。\*創設された日本中国学会理事長・財団法人斯文会理事長となる。思想史理解に必要であると、講義を始め、「漢字の起原1,2」を刊行、以後、毎年のように続けて刊行して行く。

朝鮮戦争始・1950＝56歳：論文「殷商子姓考」「吳許呂姜姓考」。「漢字の起原3」刊行。

独立回復・・・1951＝57歳：論文「扶桑の語原に就いて」「仁の語義に就いて」。「礼の起原と其発達」を改題した「中国原始觀念の発達」刊行

「漢字の起原4,5」刊行。\_新年御講書始で「漢書」を御進講。

メーデー事件・1952＝58歳：論文「祝融と重黎」。「漢字の起原6」刊行。

TV放送始・・・1953＝59歳：論文「春秋時代の総合的研究」。「漢字の起原7」\_尚書集解」刊行。これまでの実証的研究を踏まえて、この頃から、中国古代における宗教的世界を探究するようになり、

次女が愛弟子と結婚。論文「堯と義和の性格に就いて」。「中国古代の宗教と思想」「漢字の起原8」刊行。

55年体制始・1955＝61歳：「漢字の起原9,10」刊行。論文「巫祝考」。\_東京大学を定年退職し、

国連加盟・・・1956＝62歳：「漢字の起原11」刊行。\_二松学舎大学教授に就任。「定本書道全集」第1巻を分担執筆したのを契機に、

なべ底不況・1957＝63歳：日本中国学会理事長を辞任。二松学舎大学文学部長に就任。論文「少皞陶姓考」。「漢字の起原12」刊行。

インスタントラーメン・1958＝64歳：「漢字の起原13」刊行。論文「漢字から見た中国の社会」\_「王若曰攷」以降、

美智子妃・・・1959＝65歳：論文「允格考」「唇齒輔車の意味について」

安保闘争・・・1960＝66歳：「漢字の起原14」刊行。\_中国語論文「仁人と善人」(のち日本語訳される)、

イタイ病始・1961＝67歳：「漢字の起原15」刊行。

全国総合計画1962＝68歳：\_二松学舎大学学長に就任。

TV宇宙中継始1963＝69歳：「漢字の起原16」刊行。英語論文「The Meaning of Li」、論文「周公」(のち中国語訳される)を書き、

東京リビック1964＝70歳：以後4年(国際情報)に「文字解釈」連載、古稀記念で「真古文尚書集釈」刊行して、尚書研究の本懐を遂げ、

大学紛争始・1965＝71歳：「漢字の起原17」刊行。論文「孝の孔子の新解釈」。

いざなぎ景気1966＝72歳：論文「老子の善・善人について」。「金文訳註輯1」「漢字の起原18」\_「老子原義の研究」を刊行し、

美濃部都知事1967＝73歳：論文「玉燭と李尉史と玉衡」「文武文獻考」。「金文訳註輯2」刊行。勲二等瑞宝章。

震ヶ関ビル・1968＝74歳：論文「釈由?西」「弗忌考」。「金文訳註輯3」「漢字の起原19」刊行。

全共闘ビーク・1969＝75歳：「金文訳註輯4,5」刊行。自らを困んで座談会「学問の思い出」。

大阪万博・・・1970＝76歳：論文「詩経に見える周初に於ける下の資格」。「金文訳註輯6」。\_助成得て、辞典的な「漢字の起原」刊行。この年、白川静が岩波新書「漢字」刊行されたが、以後の講義で、これを罵倒していたことも知られている。

トルジョック・・・1971＝77歳：英語論文「The Origin of the Oriental Idea・・・」。「金文訳註輯7,8」「漢字の発掘」刊行。

日中国交回復1972＝78歳：共著で「角川～当用漢字字源辞典」刊行。

石油ショック1973＝79歳：\_絶筆となる論文「皐と?」「所謂伊東人」まで、ひたすら中国古代の宗教人としての尙書の実像に迫り続け、

角栄金脈辞任1974＝80歳：36年にわたって、数多くの大学の非常勤講師も歴任し、日本ユネスコ国内委員会日本の思想文獻翻訳文化

委員会委員を辞任するまで、多くの俊秀を育成、

ケラップール事件1975＝81歳：\*二松学舎大学学長を辞任して、

成田衝突・・・1978＝84歳：\_没した。

今西幹一・山口直孝編「二松学舎の学芸」、